

当ガイドは、釣行に「必要なもの」から「道具の扱い方とセッティング」、「釣るコツ」を紹介。一度通して読んで、万全な状態で釣りに出掛けましょう!!

★出掛ける前に必要な小物を購入

お買い物リスト

このリストを釣具店の店員さんに見せて用意しよう!

- ウキ** 3種類を用意
種類があるウキは、浮力B、2B、3Bの3種類を用意しましょう。大きさはすべてL。これでカバーできます。
- 付けエサ** オキアミ 1~2パック
これで1日楽しめます。
- ガン玉** セット1つ
ウキの浮力調整や潮の早さなどで号数を変えます。3B~2号程度までが入ったセットを購入して、さまざまな対応ができるようにしましょう。
- ヨリモドシ** 2~3個
10~12号前後の大きさを 사용합니다。通常は10個くらい入ったパック売りです。
- 半円シモリ玉** 1パック
ハリス3号までが通る大きさを購入。一般的に10個くらい入ったパック売りです。
- ゴム管** 1パック
こちらもハリス3号までが通る大きさを買います。10cmくらいの管状、もしくは1cm程に切り分けた数個入りのパックがあります。

グレには...

仕掛け 4~5組
メジナ仕掛け ハリス2~3号で、ハリスはグレの4~6号を使うのが一般的です。食い渋りなどを考慮して、ハリスの太さやハリスの大きさを変えて準備しましょう。

コマセ オキアミ1ブロックに、グレ用の配合エサ
集魚用のコマセを使って、効率良く仕留めるのが基本となります。配合エサ(魚の大好物が詰まっている粉末の粉)とオキアミブロックを混ぜて作ります。

チヌには...

仕掛け 4~5組
クロダイ仕掛け ハリス2~3号で、チヌバリの1~3号を使います。グレ同様用意しましょう。

コマセ オキアミ1ブロックに、チヌ用の配合エサ
チヌ用の配合エサを用意。グレ同様オキアミブロックを混ぜます。

その他あると便利グッズ
「フィールドプライヤー」や「エサ箱」などは、「ゴールドマニュアルブック」の118ページ~を参考にしよう。

釣行前日までに準備! 疑問があったら釣具店に!!

※堤防や磯では安全のためにライフジャケットを着て、釣りを楽しみましょう。

★釣るための準備

釣具の特徴と正しいセッティングをマスターして快適な釣りを!

【スピニングリールの特徴】

ベールアームが回転して糸を巻き取るタイプ。



ハンドルを交換して使いやすくしよう
スピニングリールはハンドルの左右交換が簡単にできる。ロッド操作は利き手の方が上手いので右利きの人は、左ハンドルに。左利きの人は、右ハンドルに変えるのがベストです。



【釣具のセッティング】

1~3の順でセットしよう

基本作業は、道糸をロッドの中またはガイドに通します。そして半円シモリ玉やウキ、ゴム管を通した後、ヨリモドシに結びます。最後に仕掛けを結んでガン玉セットします。なお、穂先(先端部)はデリケートなので、やさしく扱きましょう!



1 振り出し外ガイド竿に道糸を通して伸ばす

① 竿の先端にあるキャップを外します。

② リールをセットして、ベールを開けて(オープン)糸を出せる状態にします。

③ ガイドを真っ直ぐにそろえ、下から穂先をつかみながら穂先から順に道糸を通して行きます。

④

⑤ 伸ばし切ったら再度、ガイドが一直線になっているかを確認します。この際、継ぎ目の締め具合を調節。ジョイント部を軽くねじ込むように引いて、しっかりと止めましょう。道糸がガイドから抜けないように注意して行いましょう!

1' 中通し竿に道糸を通して伸ばす

① 備え付けのワイヤーをほくして伸ばします。

② 穂先にワイヤーの先端部を入れます。

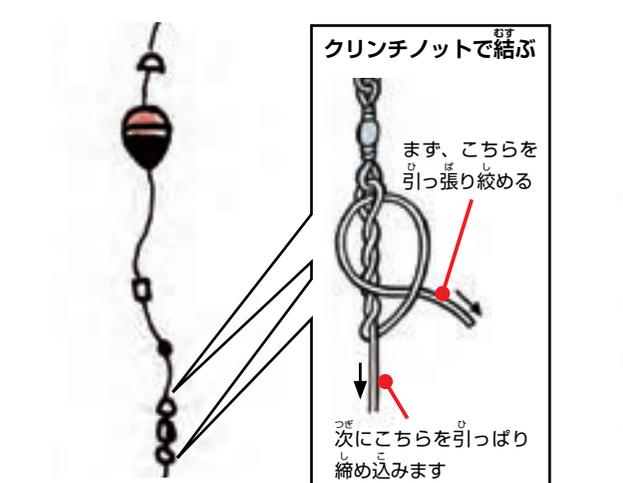
③ エントランスガイドまで先端部を入れます。

④ ベールを開けてメインラインを出せる状態にします。糸が出すぎると糸絡みの原因になるので要注意です。

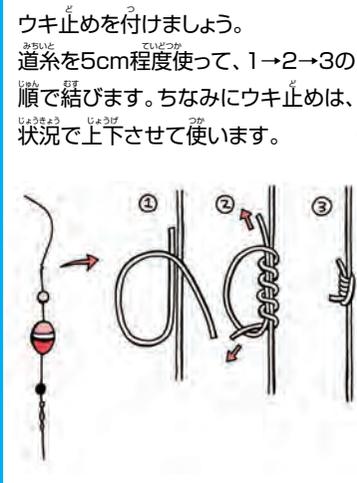
⑤ エントランスガイドの輪の中にメインラインを通し、ワイヤーの先端リングにも通します。この時、メインラインは30cmくらい余裕を持たせて通しておきます。

⑥ ワイヤーを穂先から抜いて、メインラインを抜き出します。その後は道糸を掴みながら穂先から順に伸ばします。

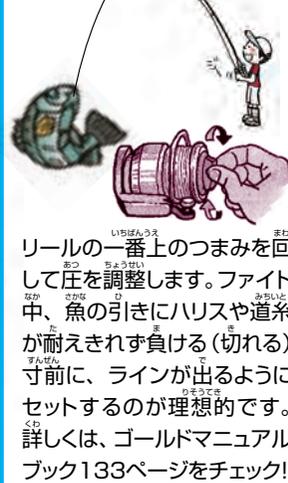
2 道糸に半円シモリ玉、ウキ、ゴム管を通し、ヨリモドシに結ぶ。そして仕掛けも結ぶ。



3 ウキ止めを結ぶ



ドラグ調整も行おう



※裏面は、釣るためのテクニックを紹介!!

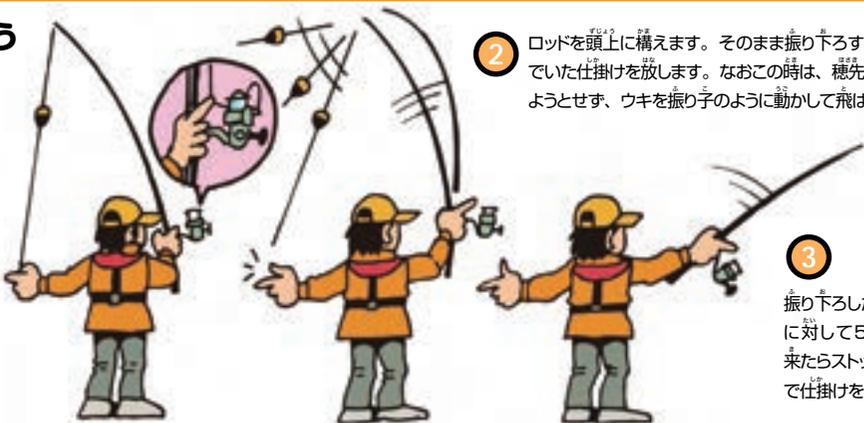
仕掛けの投入

●送り込みで仕掛けをポイントへ入れよう

オーバースローで投げられない狭いエリアや、後ろに障害物があるポイントでのキャストは“タスキ振り”をオススメします。

コンパクトに仕掛けを投入することができるうえ、飛距離も出ます。マスターすると釣りの幅も広がります！

① まずは通常のスピニングリール同様、オープンベイルで道糸を人差し指でつかみましょ。利き手でロッドをしっかりと持ち、反対の手でハリ上を持ちます。ただし、こちらは仕掛けを軽くつかむだけです。



② ロッドを頭上に構えます。そのまま振り下ろすと共に、つかんでいた仕掛けを放します。なおこの時は、穂先の反発力で投げようせず、ウキを振り子のように動かして飛ばします。

③ 振り下ろした腕がポイントに対して50度の位置に来たらストップ。後は惰性で仕掛けを飛ばします。

基本のコマセ作り

グレもチヌも、オキアミのブロック（通常は冷凍。3kgの固まり）を砕き、配合エサ半袋と水を加えて混ぜて作ります。水分量は、コマセがしっとりする程度に調整。ヒシャクにすくって投入するので、杓離れが良いように計算しましょう。



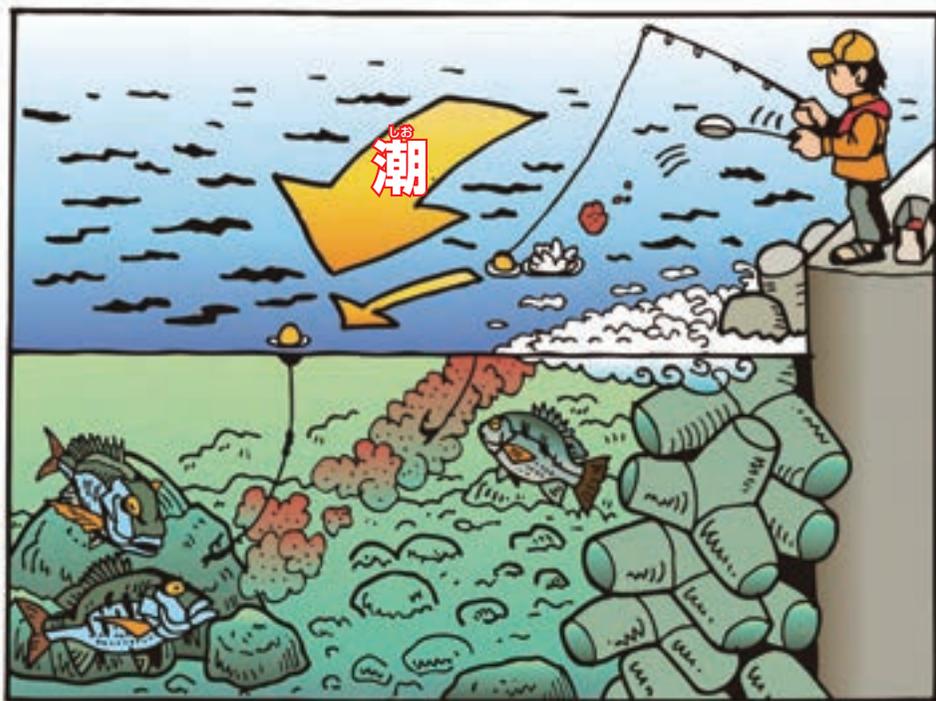
エサのつけ方も重要

通常はオキアミがエサです。尾羽根を切り、その切り口にハリ先を入れ、ハリ形状そって刺し込みます。食いが悪い時は、頭を切って使うと効果テキメンです。



★釣り方のコツ：グレ、チヌ編

コマセで寄せて釣るのが基本 仕掛けと同調させるかを考える



ウキを使って仕掛けを自然に流して探るウキフカセ釣り。この釣りに欠かせない大切な“相棒”がコマセです。

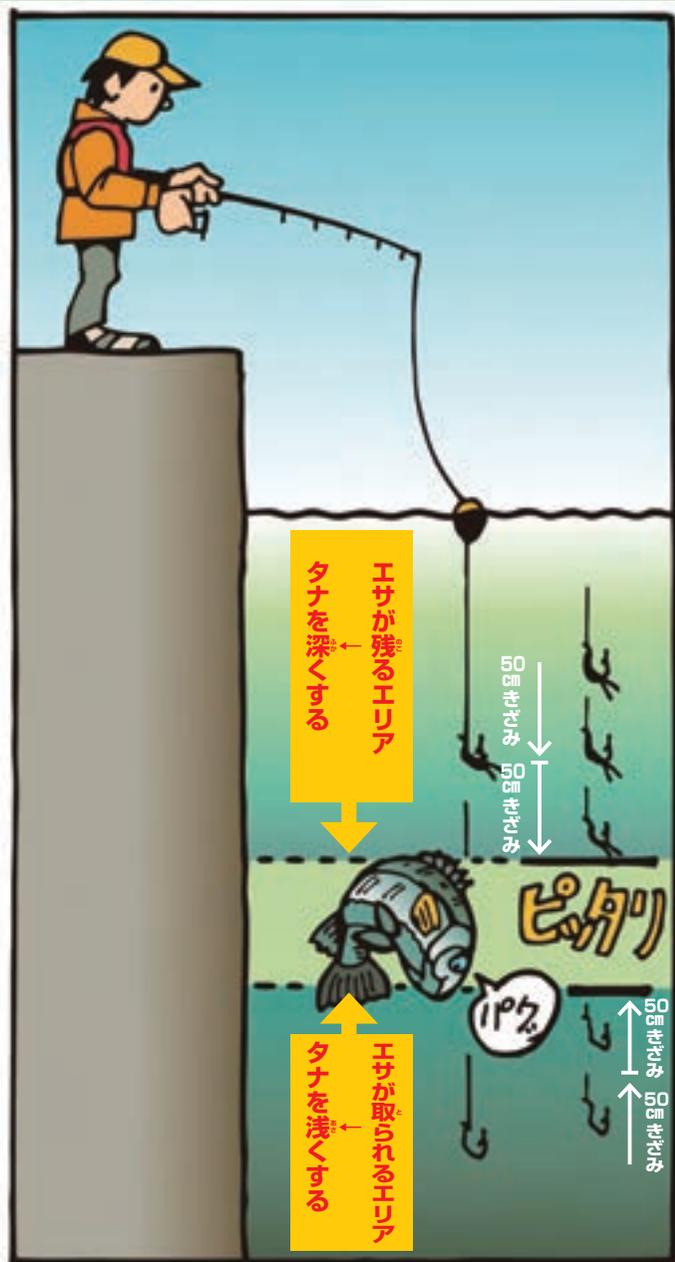
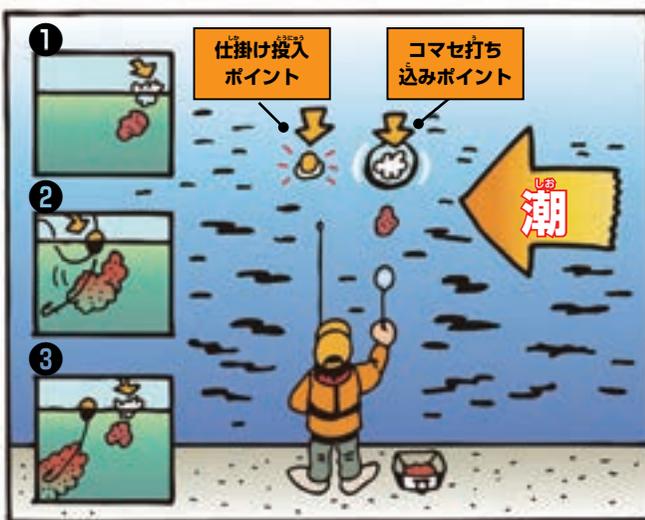
コマセの集魚力はなにしろ絶大。撒き続けていれば、必ず魚は寄ってきます。仕掛けと一緒に馴染ませて（同調と呼ぶ）探れば、魚と出会うチャンスがずっと倍増します。コマセの撒き方は以下で紹介しますが、基本は1点打ち。グレは“サラシ周辺”から探り、チヌは底付近に仕掛けを入れることがキーポイントとなります。

コマセの撒き方

コマセは、あちこち撒くと魚を散らしてしまうので、1点集中で打ちましょ。潮に流されたコマセは、自然と魚が溜まる場所へ行き着きます。仕掛けをコマセと同調させれば必然的に魚が掛かってワケです。同調させるベストな打ち方は、コマセを1杯撒いたら、次に仕掛けをその位置にキャスト。続いてもう1杯かぶせるように打つこと。コマセで仕掛けをサンドイッチするイメージで行ないましょ。なお、海は潮が流れています。コマセを再度打ち込む時は、必ず潮上へ打ちましょ。

ウキ下を調整（ウキ止めを上下）してその日の食いダナを見つけて迎撃！

タナ（魚がエサを食ってくる層）の発見法は、いたってシンプルです。付けたエサが食われたか、食われてないかわかります。イラストのようにエサが残っていたら、タナまでエサが辿り着いてない証拠。また、なくなっていたら通り過ぎた合図です。残っている場合は、ウキ下を50cm長く（ウキ止めを上げる）して再度調査。これを繰り返し、エサが取られるまで距離を詰めて行くと、ハッキリとしたタナがわかります。なおウキ止め操作は、ゴールドマニュアルブックの123ページを参照して下さい！



※コマセの使用を禁止している地域があります。釣行の際は、お近くの釣具店などで確認を！



※穂先絡みや巻き込み過ぎに要注意！
気付かぬうちにラインが穂先に絡まっていることが多くあります。そのままキャストしてしまったりすると事故の元。マメにチェックして快適に釣りを楽しましょ。
また、取り込み時の仕掛け（テンビンやビシ）の巻き込み過ぎも多く見受けられます。こちらも穂先を痛めることにつながる所以要注意。穂先の20～30cmくらい手前で仕掛けを止める癖をつけましょ！

※むやみにロッドを地面に置かない！
自分はもちろん、他の人に踏まれて折れることがよくあります。ロッドを置く場合は、荷物に立て掛けるなど、地面に寝かせないように置きます！！

※かたづけ上手は、釣り上手！
返却日前日までに、しっかりお手入れを！！
レンタル釣具は、返却日まではお手入れをし、元通りに梱包しておきましょう。また釣具にキズを付けたり、壊してしまった場合は、その箇所をメモに残して箱の中に入れておきましょう。

ロッドをたたむ場合は…
バッド部の継ぎ目から順に外して行きます。ジョイント部がキック締まっている場合は、継ぎ目の部分を持ち、雑巾を絞るようにネジリながら引くとうまく抜けます。くれぐれも先端を持って外さないこと。穂先が折れます！